

生ごみを減量しよう!②

ダンボールコンポストでリサイクル

湖北広域行政事務センターが平成23年度に行った可燃ごみの組成調査によると、約26%が『生ごみ』であり、非常に高い割合を占めています。家庭から出る『生ごみ』をリサイクルすることが、大幅なごみの減量につながります。ぜひ、皆さんの家庭でも、簡単に生ごみを利用して堆肥を作ることができるダンボールコンポストを始めてみませんか!

【用意するもの】

- ダンボール箱（みかん箱程度）
- 箱の底に敷く下敷き用のダンボール
- 土台（木片、ガムテープの芯など）
- ピートモス（15㍓）
もみがらくん炭（10㍓）
- ※いずれも土壤改良材で、ホームセンターや園芸店で購入できます。
- 不要になったバスタオルや毛布（虫よけとしてダンボールにかぶせます。）
- 木べらやシャベル
（かき混ぜるときに使用します。）
- ガムテープ



【設置場所は?】

ダンボールの強度を保つために、ダンボールコンポストの設置場所は、できるだけ雨に濡れない、風通しのいい場所に置きます。例) 台所、玄関、軒下、ベランダ等

【作り方】

- ①ダンボールの底をガムテープで補強し、すきまをふさぎます。
- ②箱の底に下敷き用のダンボールを1枚敷き、二重にします。
- ③ピートモス（15㍓）ともみがらくん炭（10㍓）をダンボール箱の中に入れ、よくかき混ぜます。（3対2の割合）
- ④箱の足用に使う木片（またはガムテープの芯5つ）の上にダンボール箱を置きます。
- ⑤生ごみを入れてよく混ぜます。投入する生ごみは、1日500gまでを目安とし、水分の多いものは入れないようにします。
- ⑥生ごみを入れるたびによくかき混ぜ、空気を入れます。
（生ごみを入れない日も、1日1回はかき混ぜるようにします。）



- ⑦ダンボールの上から、不要になったバスタオルや毛布等をかぶせ、虫が入らないようにします。

- ⑧⑤～⑦をおよそ3ヵ月程度繰り返すと、生ごみが分解されにくくなります。このような状態になったら、生ごみの投入を中止し、1～2週間は時々かき混ぜます。その後、約1ヵ月間寝かせると堆肥の完成です。

★できあがった堆肥は、家庭菜園やプランター等でご活用ください。

◆◆ ちょっとした豆知識 ◆◆

- ★臭いが気になる場合には、コーヒーがらやお茶葉を入れると消臭効果があります。
- ★ダンボールコンポストは温度調整が大切です。野菜くずのみを入れた場合は、最初温度が上がりにくくなります。温度が低い時は、使用済みの食用油、肉、魚、米ぬかを入れると温度が上がりやすくなります。
- ★投入する生ごみは、細かく刻んだ方が早く分解します。
- ★中に入れない方がいいもの・・・鳥や豚などの骨、貝殻、トウモロコシの芯、玉ねぎの皮、漬物や梅干しなど塩分の多いものなどは、分解されにくいので、入れる場合は、細かく砕いて入れるようにします。